

1~3月期の業況は低下

【特別調査】 「中小企業におけるデジタル化への対応について」

【調査要領】
 調査時点：2023年3月上旬
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先103社
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
 調査企業数：103社
 調査票回収：103社
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析
 景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	19
不動産業	5
総計	103

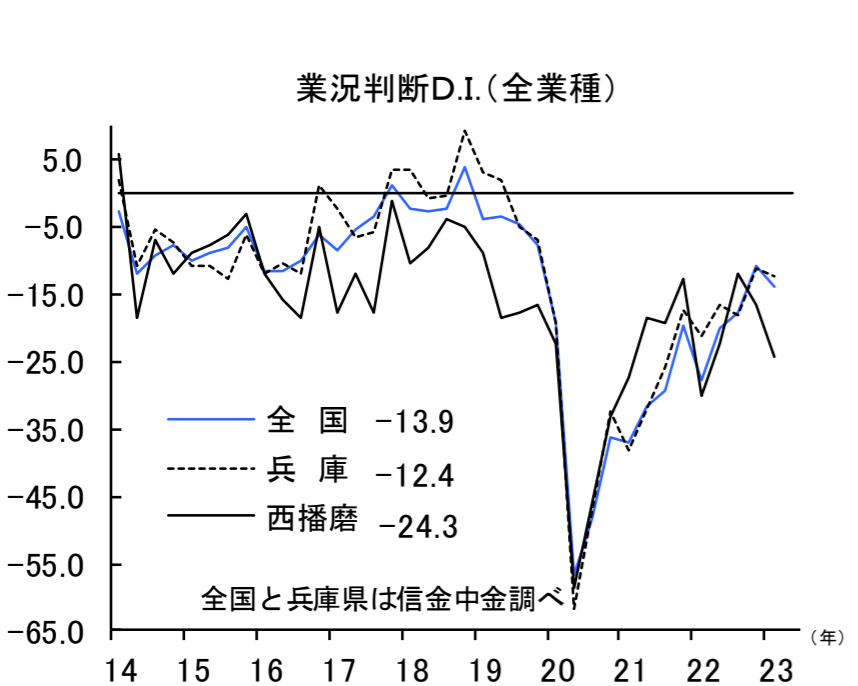
（例）

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

全業種総合

～景況感は低下～
 23年1~3月期（今期）の業況判断 D.I.は△24.3 と、前期比 7.8 ポイント低下した。前期に比べ業況が「悪い」と回答した企業が 0.9 ポイント増加し、「良い」と回答した企業が 6.8 ポイント低下したことによる。
 前年同期比の売上額判断 D.I.は 1.0 と前期比横ばい。同収益判断 D.I.は△27.2 と前期比 4.9 ポイントの低下となった。業種別の業況判断 D.I.は、小売業、不動産業が改善した一方、製造業、卸売業、サービス業、建設業は低下した。
 全国の業況判断 D.I.は△13.9 と前期比 3.1 ポイント低下、兵庫県では△12.4 と同 1.1 ポイント低下した。

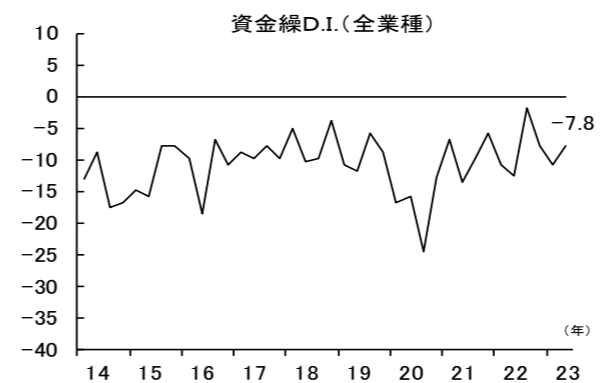


過去4四半期の業況判断 D.I.を平均して判定

【業種別天気図】

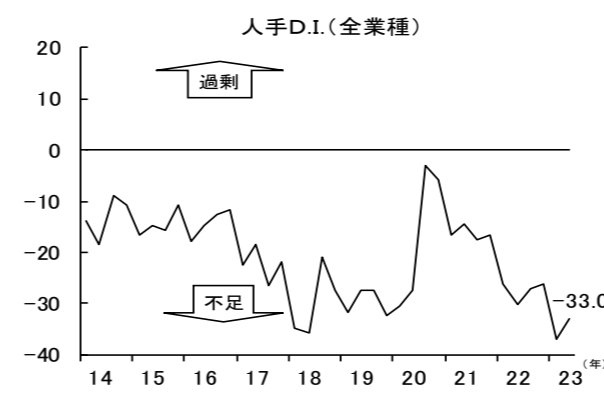
業種名	2022年10~12月	2023年1~3月	2023年4~6月(見通し)
総合	晴れ	曇り	曇り
製造業	曇り	曇り	曇り
卸売業	曇り	曇り	曇り
小売業	曇り	曇り	曇り
サービス業	曇り	曇り	曇り
建設業	曇り	曇り	曇り
不動産業	曇り	曇り	曇り

快晴 晴れ 晴れ時々曇り 曇り 雨 大雨
 好調 ← → 低調



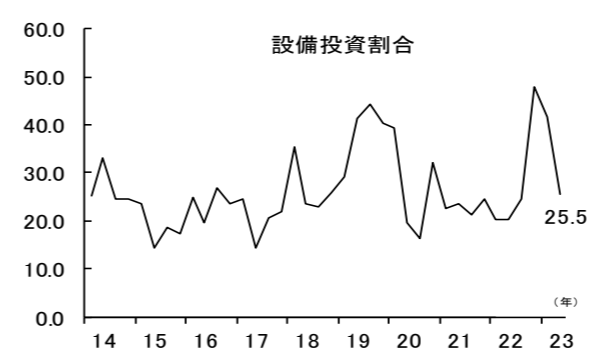
～販売価格判断 D.I.、仕入価格判断 D.I.はともに低下～
 販売価格判断 D.I.は 15.5 と前期比 3.9 ポイント低下した。
 仕入価格判断 D.I.は 53.4 と前期比 9.7 ポイント低下した。

～資金繰り判断 D.I.は上昇～
 資金繰り判断 D.I.は△7.8 と、前期比 2.9 ポイント上昇した。業種別では、小売業が前期比 11.8 ポイント、建設業が同 10.5 ポイント上昇。サービス業が同 5.3 ポイント低下。製造業、卸売業、不動産業が横ばいとなった。



～人手過不足判断 D.I.は、人手「不足」感が弱まった～
 雇用面では、人手過不足判断 D.I.が△33.0（マイナスは人手「不足」超）と前期比 3.9 ポイント上昇し、人手「不足」感が弱まった。残業時間判断 D.I.は 1.0 と、前期比 6.8 ポイント低下した。残業時間が「増加」したとする企業の割合が減少し、「減少」したとする企業の割合が増加したことによる。

～設備投資実施企業割合は低下～
 設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は 25.5%と、前期比 16.3 ポイント低下した。



～来期の景況感は今期実績比低下の見通し～
 来期の予想業況判断 D.I.は△27.2 と今期実績比 2.9 ポイントの低下を見込んでいる。
 業種別の予想業況判断 D.I.は、小売業が今期実績比 5.8 ポイント上昇。製造業が同 6.3 ポイント、サービス業が同 5.3 ポイント、建設業が同 5.2 ポイント低下。卸売業、不動産業が横ばいとなる見通し。

＜経営上の問題点＞

経営上の問題点としては、「原材料高」が 37%、「人手不足」が 33%と多く、その他では「売上の停滞・減少」が 27%、「利幅の縮小」が 24%、「人件費の増加」が 18%となった。

経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	原材料高	37%
2位	人手不足	33%
3位	売上の停滞・減少	27%
4位	利幅の縮小	24%
5位	人件費の増加	18%

＜当面の重点経営施策＞

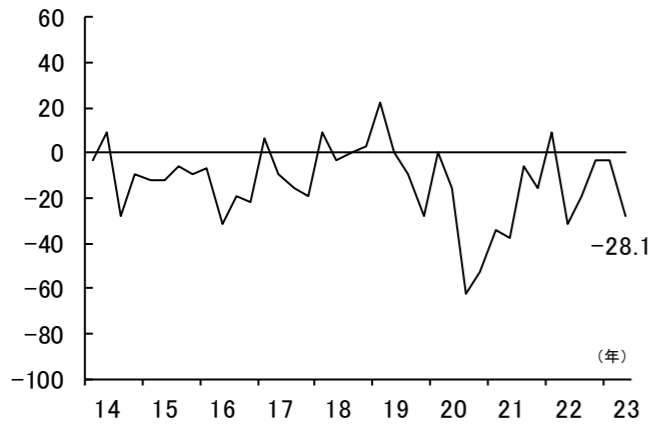
当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が 33%、「人材を確保する」が 32%と多く、その他では「販路を広げる」が 28%、「情報力を強化する」が 18%、「教育訓練を強化する」が 12%、「機械化を推進する」が 10%となった。
 前回に引き続き、原材料高の高騰により、経費削減を重点的に取り組む事業者が多くなっている。

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	33%
2位	人材を確保する	32%
3位	販路を広げる	28%
4位	情報力を強化する	18%
5位	教育訓練を強化する	12%
6位	機械化を推進する	10%

製造業

業況判断D.I.(製造業)



～製造業の景況感は低下～

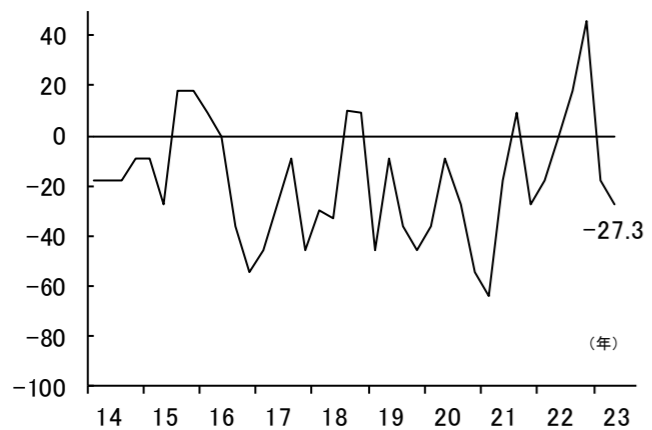
今期の業況判断 D.I.は $\Delta 28.1$ と、前期比 25.0 ポイント低下した。

前年同期比売上額判断 D.I.は 12.5 と前期比横ばいとなった。同収益判断 D.I.は $\Delta 37.5$ と前期比 25.0 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 34.4%と、前期比 6.2 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は 3.1 と、前期比横ばいとなった。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 25.0$ と前期比 21.9 ポイント上昇し、人手「不足」感が弱まった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 34.4$ と今期実績比 6.3 ポイントの低下を見込んでいる。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と、前期比 9.1 ポイント低下した。

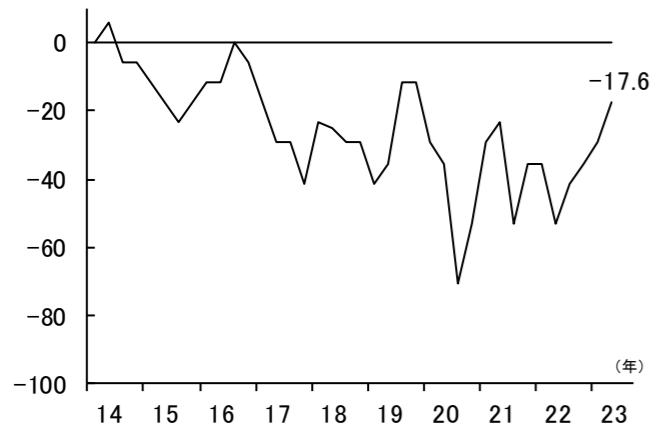
前年同期比売上額判断 D.I.は 9.1 と前期比 18.2 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 9.1$ と前期比 36.4 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は 0.0 と前期比横ばい、人手過不足判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と前期比 18.2 ポイント上昇し、人手「不足」感が弱まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



～小売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 17.6$ と前期比 11.8 ポイント改善した。

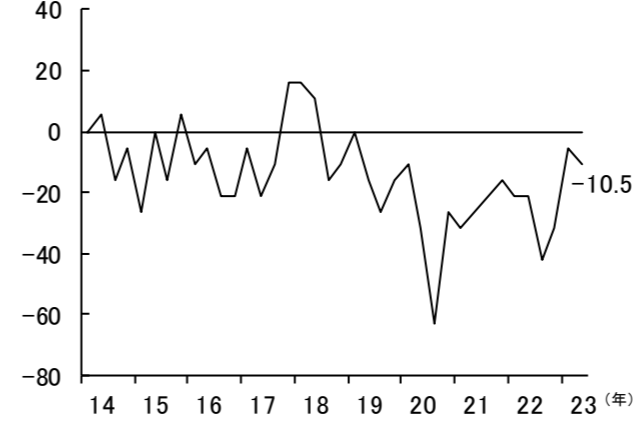
前年同期比売上額判断 D.I.は 5.9 と前期比 5.9 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 23.5$ と前期比 11.8 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 23.5$ と、前期比 11.8 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 29.4$ と前期比 11.8 ポイント低下し、人手「不足」感が強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 11.8$ と、今期実績比 5.8 ポイントの改善を見込んでいる。

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、前期比 5.2 ポイント低下した。

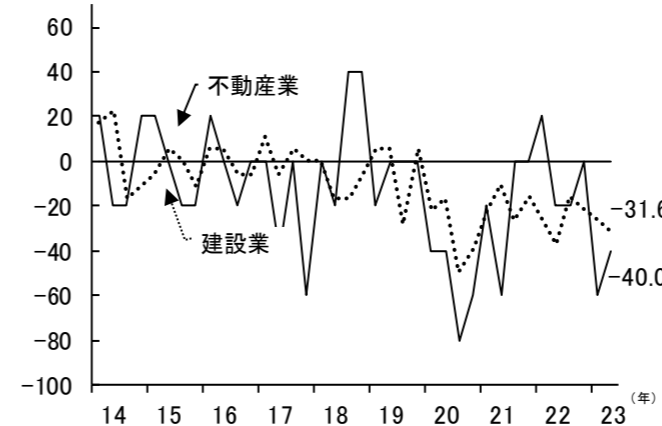
前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と前期比 15.8 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は 0.0 と前期比 5.3 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 21.1$ と前期比 5.3 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 52.6$ と前期比 15.8 ポイント低下し、人手「不足」感が強まった。残業時間判断 D.I.は 15.8 と、前期比横ばいとなった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 15.8$ と、今期実績比 5.3 ポイントの低下を見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は低下～

今期の建設業の業況判断 D.I.は $\Delta 31.6$ と前期比 5.3 ポイント低下。前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 26.3$ と前期比 5.2 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 57.9$ と前期比 15.8 ポイント低下した。受注残判断 D.I.は $\Delta 21.1$ と、前期比 5.3 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と、前期比 10.5 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 36.8$ と、前期比横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 36.8$ と、今期実績比 5.2 ポイントの低下を見込んでいる。

～不動産業の景況感は改善～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は $\Delta 40.0$ と前期比 20.0 ポイント改善。前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と前期比 20.0 ポイント改善。同収益判断 D.I.は 0.0 と前期比 20.0 ポイント改善した。資金繰り判断 D.I.は 0.0 と前期比横ばいとなった。在庫過不足判断 D.I.は $\Delta 40.0$ と前期比 40.0 ポイント低下した。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 40.0$ と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

調査員のコメント

製造業：原材料費の高騰により収益が低下。また人手不足が深刻化。人材確保のため昇給を検討。

卸売業：販売価格の低下による収益低下を懸念している。原材料・仕入価格が上昇しているが価格転嫁は難しい。

小売業：仕入・物流は回復傾向。人手不足が課題であり、デジタル化の拡充を検討。

サービス業：自動車の納期等が半導体不足で遅れている。中古車価格は上昇している。金利上昇の影響でローンの貸し倒れリスクが増加。

建設業：資材の価格は高止まりしている。売上確保のため販路拡大、経費削減に努めている。

不動産業：物価高騰により販売坪数が縮小している。過疎地については利用価値を高める必要がある。